

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成30年3月

栽培していたものが逸出して広がりました。鹿児島県では一般防除種に指定され、南さつま市、出水市、伊佐市、屋久島で確認されています。在来植物との競合が確認されています。分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、できれば抜き取りや伐採により除去しましょう。

1 基本情報

分類

目・科名	トウダイグサ科	
種名(亜種名)	アブラギリ	
学名	<i>Vernicia cordata</i>	
環境省カテゴリー	重点対策外来種	
県カテゴリー	一般防除種	
由来	県内由来外来種	
侵略的外来種番付表	関脇(島嶼)	
番付表掲載の理由	県内由来外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN 世界の侵略的ワースト100)	—	
侵入・定着の状況		
自然分布域	中国。南日本に自然分布している可能性がある。	
県内初報告	不明	
県内への侵入の経緯	栽培逸出	
県内の侵入分布	南さつま市、出水市、伊佐市、屋久島	
全国の侵入分布	本州(関東地方以西)、四国、九州、沖縄	
生態学的特性		
生態	日当たりの良い所を好む。	
形態	高さ15mの落葉の高木。幹の直径は60cmになる。 全体にほとんど無毛。樹皮は淡灰褐色。枝は若いときから太く、淡い緑色だが、2年目には暗褐色となる。葉は互生で鋸歯があり、ときに上部が浅く3つに裂ける。花は白色で枝先につく。	
繁殖形態	花期は5～6月。 果実に種子は通常3個あり、ほぼ球形。	
生息環境	暖地の様々な環境に生育している。	
特記事項	—	

(鹿児島県立博物館 提供)

(鹿児島県立博物館 提供)

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①在来植物と競合。
県内で特に予想される被害	県内の在来植物と競合。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①生息環境適応力の高さ。 ②栽培していたものの逸出。
3 対策	
アブラギリとの関わり方	分布の拡大を防ぐために、植えないようにしましょう。自己の管理地に生えている場合は、できれば抜き取りや伐採により除去しましょう。
見分け方	アブラギリは、高さ8m～18m。幹は直立し、樹皮は淡灰褐色で平滑。類似種であるイイギリは、高さ10～15m。幹は直立し、樹皮は灰白色で皮目が目立つ。
見かけやすい場所・時間	暖地の様々な環境に生育している。
防除方法	幼木の抜き取りや伐採などによる防除。
防除の取組事例	平成25年度に屋久島において、屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査で、アブラギリの加害実態等把握調査を実施している。
その他	—
参考資料・参考URL	Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 屋久島世界遺産地域等における森林生態系に関するモニタリング調査の概要 http://www.env.go.jp/park/yakushima/ywhcc/wh/kagaku/9/140301_2-1.pdf 林ほか(1985)原色樹木大図鑑. 北隆館. 東京